

オキナワ、闘いの戦後史 B52墜落／女性死亡事故／
毒ガス移送 写真1万3145点アーカイブ化 読谷

毎日新聞 2019年10月11日 大阪夕刊



毒ガス即時撤去を要求する県民大会＝1970年撮影、読谷村提供

米国統治下での祖国復帰運動など沖縄の戦後史を記録した写真1万3145点を、沖縄県読谷（よみたん）村がデジタルアーカイブ化し、8月からインターネットで公開している。琉球政府の初代公選主席で、本土復帰後に知事を務めた村出身の屋良朝苗（やらちょうびょう）氏ら沖縄の戦後を代表する政治家の姿や、米軍による事件や事故に抗議するデモの様子など、貴重な「オキナワ」が記録されている。【佐野格】

写真は2013年に沖縄県教職員組合が読谷村に寄贈した資料の一部。村教委が書類を先にデータベース化していたが、ネガフィルムなど写真類は手つかずとなっていた。埋もれたままの資料をよみがえらせようと動いたのが、沖縄の戦後政治史を研究している九州大大学院生の村岡敬明さん（32）。17年、村の資料室で無造作に置かれていた資料を発見し、「沖縄を研究する一人としてきちんと後世に残さなければ」とデジタルアーカイブ化を企画した。



米兵が下校途中の女子高生を切りつけ重傷を負わせた事件に抗議する元那覇市長の瀬長亀次郎氏（中央）ら＝1970年撮影、読谷村提供

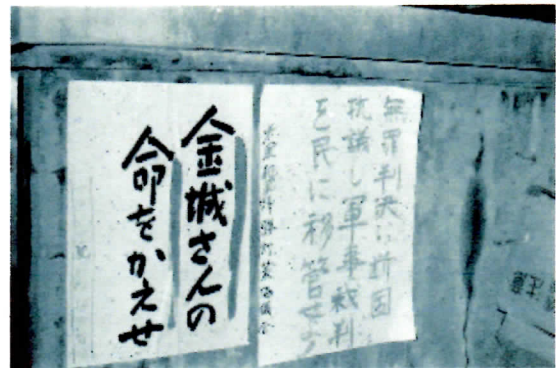
村岡さんは17年11月に村教委と覚書を締結。インターネットで資金を募るクラウドファンディングと沖縄県教職員組合など団体の寄付と合わせ164万円を集めた。写真は村岡さんや村職員らが一枚一枚確認し、撮影日や人名、場所などできる限り情報を記し、重複したものなどを除いた。

写真は沖教組が前身の沖縄教職員会時から機関紙用に撮影したものなど。米国統治下の沖縄で屋良氏は沖縄教職員会の会長を務め、復帰運動の先頭に立っていた。

米軍嘉手納基地の爆撃機B52の墜落事故（1968年）に抗議するストライキ（69年）▽佐藤栄作首相訪米の抗議大会（69年）▽コザ騒動の引き金となった酒気帯び運転の米兵による女性死亡事故への反発（70年）▽沖縄で戦後初めて実施された国政参加選挙（70年）▽沖縄の米軍基地で保管されていたマスタードガスなどの毒ガスの移送（71年）――など、復帰と基地に揺れる戦後の沖縄の生々しい様子が伝わってくる。

その他にも米軍基地従業員による大規模なストなど貴重な写真が多数含まれている。村岡さんは「写真を見れば複雑な沖縄の戦後史がより理解しやすいはず。公開されることで事実に基づいた議論が活発化すれば」と期待する。

サイト「沖縄戦後教育史・復帰関連資料（写真）」（<http://photo.yomitani-sengoshi.jp/>）で閲覧でき、村に申請すれば利用することもできる。詳しい説明がない写真も多数あり、村岡さんやサイトを運営する村史編集室は新たな情報提供も呼び掛けている。



70年9月、沖縄県糸満町（現糸満市）で酒気帯び運転の米兵が歩道を歩いていた女性をはねて死亡させた。しかし米軍法会議で米兵は無罪となり、この事件は沖縄で反発が広がり、コザ騒動の引き金となったといわれる＝1970年撮影、読谷村提供

問い合わせは村史編集室（098・958・2142）。